
剣と魔法と最っ高の自由！

紅茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

本編とは関係ありません。

プロローグ 転生？（前書き）

どうも紅茶です。

自分のほどばしる妄s・・・パトスをあふれ出させてもらいましたw

では、ごうぜー！

プロローグ 転生？

普通に住んでいると、偶然なんてこと良くある。

まさかあの某魔女みたいに、偶然なんてないあるのは必然だけ。 |
なんて言うつもりなんてサラサラない。

偶然みたいな必然。必然みたいな偶然。

さらには奇跡なんて言葉もある。

偶然。必然。奇跡。

共通して言えることは起こりうる事、つまり可能性の話だ。

必然く偶然く奇跡の順番に可能性は低くなる。

だが、可能性が低いだけであってどれも起こりうる可能性を持っている。

そう、可能性 を持っているんだ -

。

俺は今日車に轢かれて死んだ。

はずだった。

死んだ後の世界なんて知りもしないが、天国とか、地獄とかに
行くもんだと思ってたんだ。

だが、辺りを見回してみるとそこには真っ白な空間があるだけだ。

一面真っ白。真っ白な四角い箱みたいところに俺が居る。

なんでこんなところに居るのかと不思議に思っていると、不意に声
が聞こえた。

「あの・・・大丈夫ですか？」

そこにいたのは、金髪碧眼の凄く幼い感じのする女の子がいた。だが、それよりも驚くべきところは背中だ。その背中には、大きな翼がついていた。

「ーっ!」

驚きに声をあげようとするが、なにやら喉のところに何かが引っかかっている感覚があり、上手く喋れない。

「うーん・・・やはり死んだ時の感覚がのこっているようですね。すぐに治します。えいっ!」

可愛らしい声とともに、喉の違和感が消えて行く。

「こほっこほっ・・・ううん？治ってる?」

喉の違和感が消えて行くと同時に喋れるようになる。つていうか何したんだ？

「えーつとですね、少し死んだときの影響がでていたので、それをこほほいっとり除かせてもらいました」

「死んだとき?つていうか何で俺の考えてること分かったんだ?」

「それはほら、私神様ですから」

そういつてにこっつと笑う神様(仮)。

向こうで神様(仮)が(仮)つて・・・つてうなだれてるけど知ら

ない。

ふーむ…イマイチ信用できないが信用するしか無いようだ。
身体もあるし死んだかどうかは分からないが、車に轢かれた記憶もあるし何でかは知らないがこの真っ白な空間にいる。

うだうだ考えてても仕方ないしとりあえずは受け入れるか…。

「凄いですねー……。普通の人ならパニックになつてるところですよ?」

「パニックになつても仕方ないですねカミサマ(仮)」

「(仮)いりません!じゃなくて!ええと……。早速本題に入りますよ?」

神様は一息ついたあと、

「あなたには転生してもらいます」

そう。

今日俺は、奇跡の可能性を体験したのだった

。

プロローグ 転生？（後書き）

この小説を読んでいたいただきありがとうございます。

駄文&亀更新ですが自分の妄想尽き果てるまでは続けていきたいと思えますw

感想批評等々ありましたら遠慮なくばしばし投げつけるようにください。

作者は喜びますw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4229ba/>

剣と魔法と最っ高の自由！

2012年1月11日05時04分発行